

埼玉県議会議長賞

東松山市立東中学校 三年 米塚 純礼

四年後の私へのメッセージ

「神明町の皆様、おはようございます。〇〇でございます。△△党の〇〇が、ご支援のお願いとご挨拶に上がりました！」

遠くから聞こえてくる街宣車のアナウンスを何度も耳にした今年の夏。

七月十日は参議院議員選挙の投票日。消費税などを話題にして投票所に向かう両親を見送り、もしも私に投票権があったら、どの党に一票を投じるのか、ふと考えていた。

いくつかの政党は、物価高騰対策の為、消費税率の時限的な引き下げを公約に掲げていた。中には消費税廃止を掲げる政党もあった。

「税金がなくなれば、消費者の負担が減り楽になるのでは？」そんな考えが頭をかすめた。しかし、一週間後にその「安易な考え」が一変する経験をすることになる。

私は新型コロナウイルスに感染した。四十度を超える熱と強い喉の痛み、咳に苦しんだ。

我が家では、私を含め二人が感染し、辛い療養生活となったが、県が運営する自宅療養者支援センターを通じて、薬と家族全員分の約三日間の食料品を自宅まで届けてもらい、無事に回復することができた。いずれのサービスも無償で受けられた事を知り、驚きと同時に税のありがたさに気付いた。

「初めて税の恩恵を受けて感動した！」

私がそう言うと母はこう答えた。

「初めてじゃないよ。あなたは生まれる前から税に助けてもらっているんだよ。」

十四年前、私は予定日より二ヶ月早く、双子の兄と共に誕生した。

ハイリスク妊娠の為、母は三ヶ月近く入院し最終的には高度の医療が行われる総合周産期母子医療センターに移送され、私達を出産した。当時の母は膨大な金額になるであろう入院費の事が不安で、毎日悩んでいたそうだ。

しかし「高額療養費制度」のおかげで最終的な負担額がだいぶ軽減され、本当に助かったと母は言っていた。

その後、とても小さく生まれた兄と私は、新生児集中治療室に三週間程入院したが「未熟児療育医療制度」のおかげで様々なケアを受ける事ができた。私は生まれる前から税金が支える医療費制度によって守られてきた事を知り、感謝の気持ちでいっぱいになった。

さらに東松山市では「こども医療費助成制度」により、十八歳までは医療費の自己負担が助成される事を知った。高校を卒業するまで窓口で支払うお金の事を心配せずに、医療機関で怪我や病気の治療が受けられるのだ。私はそれが、どれ程心強く幸せなのか、今更ながら認識する事が出来た。

四年後、私は成人となり選挙権を得る。選挙の公約に消費税減税を掲げる政党は少ないだろう。消費税を引き下げたら、あるいは廃止をしたら、日本はどのようなだろう。

「税のあり方をしっかりと考えて、主権者として責任を持って選択しよう！」

これが四年後の私に伝えたいメッセージだ。